

- 1 日時 令和2年9月18日(金) 5校時
- 2 学年 第1学年 9名
- 3 単元名 「おはなしづくりをしよう！」～3つのかずのけいさん～
- 4 単元について

○ 本単元は、学習指導要領第1学年の内容A「数と計算」で次のように示されている。

【A 数と計算】

(1) 数の構成と表し方に関わる数学的な活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(エ) 一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関連付けてみること。

(2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。

(イ) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

(ウ) 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできるようにすること。

(エ) 簡単な場合について、2位数などについても加法及び減法ができことを知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力を身に付けること。

(ア) 数量関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

これまで児童は、「いくつといくつ」の単元で1～10までの数の分解を学習し、「ふえたり へったり」の単元では、数量の増減する場面を体験的に理解したり、数図ブロックの操作によって数量の増減を捉えたりする学習を行っている。また、 $5+3$ 、 $5-3$ のような2つの数(2口の数)をもとにした一位数加減の計算を学習してきている。

本単元では、 $5+3+2$ のような3口の数の場合においても、2口の数と同様に、加法や減法を使って1つの式に表すことができることを理解させ、計算ができるようにさせることがねらいである。この時期の児童の発達段階において、問題の挿絵をもとにブロック操作へと置き換え、立式したり、また、逆に式からお話を作ったりといった算数的活動を仕組むことは、児童の思考力を高めるのに重要である。ここでの算数的活動とは、具体的な場面に基づいて式の意味を理解し、児童自らこれまでに学習してきた計算の仕方などを活用して新しい計算の仕方を考え、表現することをねらいとするものである。

そこで、本単元では、3つの数を増減する計算の意味や計算の仕方を考えながら「お話づくり」ができる児童を育てることをねらいとし、単元名を「おはなしづくりをしよう！」～3つかずのけいさん～とする。また、本単元で扱う式の型は、加・加($\bigcirc+\square+\triangle$)や、減・減($\bigcirc-\square-\triangle$)に加え、減・加($\bigcirc-\square+\triangle$)や加・減($\bigcirc+\square-\triangle$)の4種類である。左から順に演算を行えば答えが求められるということを機械的に理解させるだけではなく、「お話作り」と「立式」とを関連させながら、表現する活動を通して児童に体験的に理解させていきたい。

児童の実態・課題

- 「いくつといくつ」の単元では、10までの数の分解を反復練習してきている。数によっては、分解のイメージが難しい児童や、念頭操作だけでは難しい児童もいる。
- 「たし算(1)」、「ひき算(1)」の学習では、具体的な場面や問題文の言葉に着目させ、数図ブロックを用いて立式する学習をしてきている。
- レディネステストの結果
 - ・ 繰り上がりのない2つの数のたし算 …… 8/9
 - ・ 繰り下がりのない2つの数のひき算 …… 7/9
 - ・ 2口のたし算・ひき算のお話づくり …… 5/9

めざす児童像

- 既習事項とつなげて、学習課題に沿って意欲的に課題解決に取り組む児童。
- 自分の考えを数図ブロックなどの半具体物及びブロック図や算数用語を使って分かりやすく友達に説明することができる児童。
- 加法や減法が用いられる場面を知り、半具体物の操作と式を結び付けながら、3つの数のたし算やひき算の立式ができたり、お話づくりができたりする児童。

本単元で育てたい資質・能力

① 知識・技能	○
② 思考力	◎
② チャレンジ精神	○

手立て

- 数図ブロックを用いた算数的活動を多く取り入れ、たし算やひき算の意味を理解したり、式になるわけを説明したりさせ、加法や減法についての理解を再度、深めていく。
- 「まず」「つぎに」「そのつぎに」などの言葉を用いて、分かりやすく説明したり、友達の発表をしっかりと聞いたりすることができるようにする。
- 問題やお話をよく声に出して読ませ、「のる」「おりる」「ふえる」「へる」など、のたし算やひき算につながる言葉や算数用語を意識させていく。

使わせたい算数用語及び表現

「のる」「おりる」「ふえる」「へる」「たしざん」「ひきざん」

5 単元の目標

- ・ 3つの数の加減計算の場面を1つの式に表せることを理解し、計算することができる
- ・ 3つの数の加減計算を操作や図を用いて考え表現している。

【学習指導要領の項目 A-(2)アイ】

6 単元の評価規準

算数への態度	数量や図形についての知識・技能	数量や図形についての思考・判断・表現
・ 3つの数の加減計算について、その表し方や計算の仕方を、操作や図を用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。	・ 3つの数の加減計算の場面を一つの式に表せることを理解し、その計算が確実にできる。	・ 2つの数の加減や減法を基にして、3つの数の加減計算の式の表し方や計算の仕方を、操作や図を用いて表現している。

7 指導と評価の計画（全3時間）

小 単 元	時 間	学習活動	評価				
			態 度	知 ・ 技	思 判 表	評価規準	評価方法
3 つ の か ず の け い さん	1	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの数の計算「加・加」の場面を理解し、1つのたし算の式にする。 ・絵や数図ブロックから順々に考えるとともに、「加・加」のお話づくりができる。 <p>知識・技能 チャレンジ精神</p>	○	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの数をたす計算を1つの式に表すことよさを知り、進んで用いようとしている。 ・「加・加」の場面を理解し、1つの式に表して計算することができる。 ・身の回りの場面からお話を自由に作ることができる。 	発言内容 操作活動 ノート （ワークシート）
	2 （ 本 時 ）	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの数の計算「減・減」の場面を理解し、1つのひき算の式にする。 ・絵や数図ブロックから順々に考えるとともに、「減・減」のお話づくりができる。 <p>思考力</p>		○	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・「減・減」の場面を理解し、1つの式に表して計算することができる。 ・「減・減」の計算の意味を理解している。 ・身の回りの場面からお話を自由に作ることができる。 	発言内容 操作活動 ノート （ワークシート）
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの数の計算「加減混合」の場面を理解し、絵や数図ブロックから順々に考えるとともに、お話づくりができる。 <p>思考力</p>		○	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・「加減混合」の場面を理解し、絵や数図ブロックから1つの式にし、順々に考えている。 ・できたお話を友達と交流し合い、3つの数の計算の習熟を深める。 	発言内容 操作活動 ノート （ワークシート）

8 本時の展開

(1) 本時の目標

3つの計算（減・減）の場面を理解して課題解決し、一つの式に表すとともにお話づくりをすることができる。

(2) 観点別評価規準

◎「減・減」の場面を理解し、絵や数図ブロックから順々に考えたとともに、お話づくりができています。【数量や図形についての思考・判断・表現】

(3) 準備物

教：場面絵，数図ブロック，ワークシート

児：数図ブロック，マグネット板，ワークシート

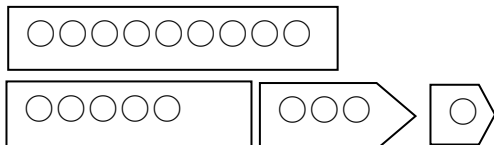
本時の学習を通して育てたい力

- 具体的な連続した場面（お話）を3つの数の計算の式に表して計算したり説明したりすることができる。
- 3つの数の加減計算の式の表し方や計算の仕方を理解し、日常生活の中から具体的な連続した場面（お話）をつくることことができる。

6. 考えを発表し合う。

はじめにねずみは9ひき乗っています。つぎに1ひき降りたので $9-1$ を書きます。その次に、また3ひき降りたので $9-1-3$ になります。答えたは5になるので、 $9-1-3=5$ になります。答えは5ひきです。

はじめに9ひきのっていましたね。



つぎに1ひきおりて、
また5ひきおりたから、
しきは $9-1-3=5$
こたえは5ひきになります。

7. 友達の発表から学んだ事をまとめる。

8. 本時のまとめをする。

◎今日のまとめを考えましょう。

へってへるおはなしでも、じゅんばんに1つのしきに
あらかずとよくわかる。

9. 適応題を解く。

◎10-5-2になるお話をつくりましよう。

はじめに子どもが10人あそんで
いました。つぎに5人帰りました。
そのつぎに2人帰りました。
子どもは3人になりました。

はじめにあめが10こありま
した。つぎに5こ食べました。
そのつぎに2こ食べました。
あめは3こになりました。

・問題を読み、数図ブロックで
操作をさせ、立式させる。

●矢印の図が入ったお助けシー
トを配布し、数の減少を視覚
的にとらえさせる。

・ブロック操作と立式とを対応
させながら全体で確認させ
る。

・全体交流の中で、お話の順番
通りに、言葉をもとに、一の
記号を使って式に表せばよい
ことをとらえさせる。

●「はじめに」「つぎに」「その
つぎに」の ことばをが書かれ
た穴あきのワークシートを用
意し、思考の助けとする。

・できたお話が正しいかどう
か、数図ブ ロックの操作を行
い、答えまで確かめさせる。

「減・減」の 場
面を理解し、
絵や数図ブ
ロックから
順々に考え
るとともに、
お話づくり
ができてい
る。
(発言内容
操作活動
ワークシート)

練
り
あ
い
ま
と
め

適
用

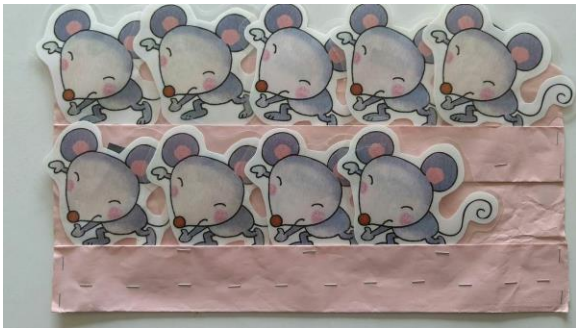
ふ り 返 り	10. 本時の振り返りをする。 ◎今日の振り返りをしましょう。	・「わ」「が」「と」「も」で、振り返りを発表させる。	
------------------	------------------------------------	----------------------------	--

【板書計画】

9 / 17 3つのかずのけいさん

④あて

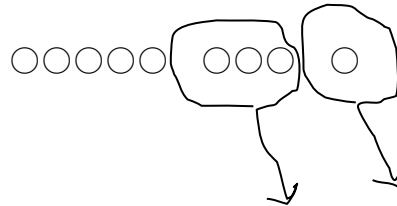
へってへるおはなしを1つのしきにして
せつめいしよう。



⑤とめ

へってへるおはなしでも、おはなしの
じゅんばんに1つのしきにあらわすと
よくわかる。

(児童の考え)



(○図 ブロック操作などで説明させる。)

10 - 5 - 2 になるおはなし

(例)

はじめに子どもが 10 人あそんで
いました。

つぎに 5 人帰りました。

そのつぎに 2 人帰りました。

子どもは 3 人になりました。

はじめにあめが 10 こありまし
た。

つぎに 5 こ食べました。

そのつぎに 2 こ食べました。

あめは 3 こになりました。

はじめに ねずみが 9 ひきのっていました。

しき $9 - 1 - 3 = 5$

つぎに 1 ひきおりました。



そのつぎに 3 ひきおりました。

もんだい (きいていること)

5 ひき

ねずみはなんびきになったでしょう。

しき $10 - 5 - 2 = 3$

3 こ